

# Economic Indicators

発表日: 2023年8月17日(木)

## 貿易統計(2023年7月)

～実質輸出は持ち直しの動き～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				輸出金額	輸入金額								
22年	1月	▲ 22,201	▲ 8,761	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 10,228	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 9,869	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,347	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 18,288	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 19,145	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,548	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,941	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,705	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 22,658	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 17,986	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 18,462	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,704	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
	2月	▲ 9,199	▲ 12,293	6.5	8.5	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.8	▲ 6.3	0.1	▲ 8.7
	3月	▲ 7,588	▲ 11,920	4.3	7.4	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.8
	4月	▲ 4,364	▲ 9,826	2.6	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 12.6	▲ 0.3	▲ 7.6	▲ 3.5	4.2
	5月	▲ 13,821	▲ 7,703	0.6	▲ 9.8	▲ 6.4	▲ 4.1	0.2	▲ 12.5	▲ 5.1	▲ 5.1	▲ 2.3	▲ 5.6
	6月	431	▲ 5,402	1.5	▲ 12.9	▲ 4.8	▲ 3.9	0.0	▲ 11.4	▲ 5.9	▲ 10.8	9.9	▲ 5.1
	7月	▲ 787	▲ 5,572	▲ 0.3	▲ 13.5	▲ 3.3	2.5	▲ 0.3	▲ 10.6	▲ 4.2	▲ 14.4	20.1	▲ 7.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○貿易収支は原数値で2か月ぶりの赤字転化

財務省より発表された23年7月の貿易統計では、名目輸出が前年比▲0.3%、名目輸入が同▲13.5%、貿易収支は▲787億円の赤字(事前の市場予想: +356億円の黒字)となった。資源価格の下落を背景に名目輸入の前年比大幅マイナスが続いた一方で、名目輸出も前年比マイナスに転じたことで、貿易収支はふたたび赤字転化した。前回6月に小幅黒字化した後、ふたたび赤字に戻ることは想定範囲内であったものの、名目輸出が前年比マイナスとなるのは21年2月以来のことであり、事前予想を下回った。ただし、昨年同月の名目輸出は中国のロックダウン解除直後で一時的に持ち直し傾向にあったことや、輸出物価が上昇基調だったこともあり、その裏が出た形といえよう。後述の通り、物価変動の影響を除いた実質輸出は、足元で持ち直しの動きを強めている。

季節調整値でみた場合の貿易収支は▲5,572億円の赤字となった。貿易赤字は縮小傾向にあるものの、今月は名目輸出(前月比+2.0%)が増加した一方、足元で原油価格が再び上昇基調にあることや円安の影響を受け名目輸入(前月比+2.0%)も増加したことで、前月から赤字幅が若干拡大している。

### ○実質輸出は持ち直しが強まる

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は、7月は前月比+1.7%と2か月連続の増加とな

った（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）。部品等供給不足の緩和による自動車輸出の回復基調が続いている（輸送用機器：前月比+0.5%）ほか、一般機械（前月比+2.2%）、電気機器（前月比+1.3%）といった自動車以外の機械類もこのところ増加に転じており、実質輸出は足元で持ち直しの動きを強めている。

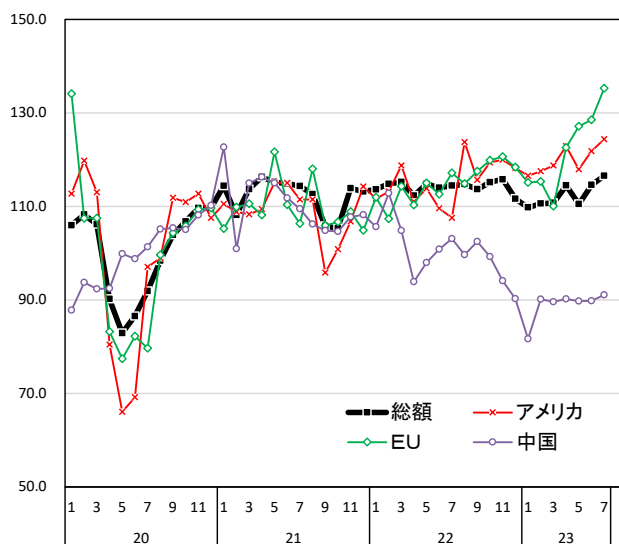
地域別には、米国向けが前月比+2.1%（6月：同+3.3%）、欧州向けが同+5.2%（6月：同+1.1%）、中国向けが同+1.5%（6月：同0.0%）といずれの地域も増加した。米国向け、欧州向けは自動車輸出のウェイトが大きいため、自動車輸出の回復が牽引している構図が続いている。自動車含む輸送用機器（対世界）は年明け以降急速な回復が続いており、7月も前月比+0.5%と6か月連続のプラスとなった。自動車輸出の回復傾向は当面続くと見込むが、先行きについては米国・欧州経済の減速に伴い、そのペースは鈍化する可能性が高いだろう。世界的な製造業部門の景況感は悪化傾向が続いており、先行きも世界的な財需要は低調な推移が予想されることから、実質輸出全体の回復ペースも緩やかなものに留まると見込む。

### ○季節調整値での貿易収支は、年内は赤字推移が続くと見込む

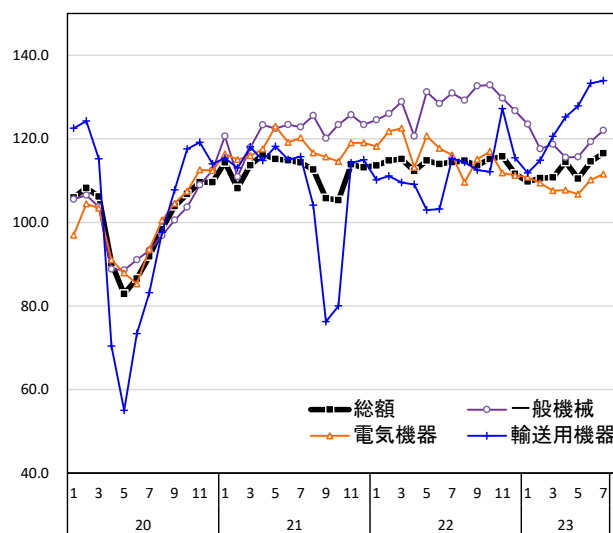
季節調整値でみた貿易収支の先行きについては、次のように見込む。

名目輸出に関して、自動車の回復を牽引役として底入れが見えてきたことから、貿易収支（季節調整値）の赤字縮小傾向は今後も継続するだろう。ただし、海外経済の減速に伴い輸出の回復は緩慢なペースに留まる可能性が高い。加えて、名目輸入については、これまで輸入物価の下落に伴い速いペースで減少してきたが、足元の原油価格（ドバイ）は再び上昇基調を強めていることから、年末にかけて減少ペースを緩める見込みだ。結果、年内の貿易収支（季節調整値）は赤字基調の解消には至らないだろう。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。